

公益財団法人 交通遺児育英会 令和3年度事業報告

本年度は第5次長期事業計画の初年度に当たるが、長引く新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」と略す）の感染拡大により、本年度も事業活動に大きな影響を受けた。

昨年度に続き、「高校奨学生と保護者のつどい」および「海外語学研修」を中止したほか、返還業務においても、長期滞納者を対象とした現地戸別訪問がごく一部にとどまったほか、民事調停の申立ても一切見合わせた。心塾の行事・講座の一部や募金課による訪問活動、無料出張講演等も中止した。

新型コロナへの対応としては、前年度に引き続き令和3年6月および令和4年3月に全奨学生に対してそれぞれ1人あたり10万円の支援金を給付した。

通常業務の奨学生の採用については、例年どおり全国の学校、教育委員会等に向け積極的な奨学生募集広報活動を行った結果、前年度に比べて新規採用者は微増となったが、大学生の継続採用者の減少が大きく、本年度の採用者合計は971人となった。

一方、奨学貸与金の回収については、本年度は、回収額、回収率ともに前年度並みであったが、滞納額は前年度末に比べて僅かながら増加した。また、返還免除は、前年度に比べて免除件数は増加するも免除金額はほぼ同額であった。

心塾に関しては、前年度は新型コロナの影響でほとんどすべての講座を中止したが、本年度はオンライン方式などの工夫により主要講座は再開することができた。また、東京寮の老朽化に伴う「心塾東京寮建替えプロジェクト」を推進中であり、本年度は基本設計まで完了した。今後は既存建物を解体した後に新築工事に着工し、令和6年春の新規オープンを目指す。

新型コロナの影響はあったが、小冊子第二集「ハンドルの重みは命の重み」や「交通遺児家庭の生活実態調査報告書」の活用、キャッチフレーズの商標登録等により、知名度向上・広報活動を積極的に行った結果、本年度の寄付金収入は総額10億円を超える大きな金額となった。

以下に事業別の詳細を記載する。第5次長期事業計画の重点課題については、本文中、項目番号の前に*印を付してある。

I. 奨学生の採用および奨学金の貸与等

近年の当会奨学事業を取り巻く環境は大きく変化している。

- ①大きい要因として、交通事故死傷者数の減少による交通遺児家庭の減少と少子化がある。
- ②高校については、平成22年度より高校無償化法（公立高等学校授業料不徴収および私立高等学校等就学支援金支給）が実施され、さらに平成26年度には法改正で低所得者への支援金支給が拡充されたことが挙げられる。
- ③また、令和2年度より大学等における修学の支援に関する法律に基づき、高等教育の修学支援新制度が発足し、授業料等減免や給付型奨学金が創設され、高等教育を取り巻く環境が変化した。
- ④一方、各都道府県においては独自の奨学金制度があり、これらの奨学金制度の多くは他奨学金との併受給を禁止している。

(参考) <最近5年間の交通事故死者数・負傷者数の推移>

年	H29	H30	R1	R2	R3
交通事故死者数(人)	3,694	3,532	3,215	2,839	2,636
同 負傷者数(千人)	581	525	461	369	362

こうした影響は、平成29年度以降の奨学生採用数でみると下表のとおりである。

この5年間では、大学院奨学生以外の全ての学校区分で減少傾向にあり、特に高校奨学生と専修学校奨学生の減少が顕著である。採用者総数は、平成29年度の1,161人から令和3年度の971人へと190人減少している。

奨学金総額への影響も顕著であり、平成29年度の757百万円(貸与のみ)から令和3年度の612百万円(貸与・給付合計)へと145百万円減少している。

<最近5年間の奨学生採用数・貸与金額の推移> (人、百万円)

年 度	高 校	大 学	大学院	専 修	各 種	合 計	奨学金総額
H29	338	625	18	174	6	1,161	757
H30	321	584	19	147	4	1,075	683
R1	305	605	20	118	4	1,052	669
R2	285	588	19	118	4	1,014	642
R3	255	567	24	121	4	971	612

(注)「高校」は「高専」を、「大学」は「短大」を含む。以下同じ。

1. 令和3年度奨学生の採用および奨学金の貸与・給付額

＜令和3年度奨学生採用者数と奨学金および入学一時金等貸与（一部給付※）額＞

		新規採用者(人)		継続採用者(人)		採用者合計(人)		貸与額 (千円)	給付額※ (千円)
		実績	前年 同期比	実績	前年 同期比	実績	前年 同期比		
奨 学 金	高 校	84	-25	171	-5	255	-30	92,220	720
	大 学	159	16	408	-37	567	-21	204,110	127,980
	大 学	16	6	8	-1	24	5	14,300	5,420
	専 修	60	4	61	-1	121	3	45,120	25,320
	各 種	3	2	1	-2	4	0	1,200	480
	合 計	322	3	649	-46	971	-43	356,950 (381,250)	159,920 (162,560)
	(R2年度)	(319)		(695)		(1,014)		516,870 (543,810)	
入 学 一 時 金 等	高 校	37	-26	—		37	-26	17,800	0
	大 学	43	7	—		43	7	29,400	0
	大 学	18	-8	—		18	-8	12,200	0
	専 修	2	2	—		2	2	600	0
	各 種								
	合 計	100	-25	—		100	-25	60,000	
	(R2年度)	(125)				(125)		(76,600)	
	準備金	—		46	15	46	15	35,200	
	(R2年度)			(31)		(31)		(21,800)	
令和3年度奨学金および入学一時金等貸与（一部給付※）額合計								612,070	
(R2年度)								(642,210)	

※) 一部給付はR2年度より開始

令和3年度の奨学生の新規採用として、令和2年度に予約決定した新1年生の本採用、および令和3年度に1年生以上に在学している者の在学採用を実施した。

新規採用数は、高校奨学生が前年度比25人減と大きく減少したが、大学奨学生が16人増加、大学院奨学生が6人増加、専修学校奨学生が4人増加、各種学校奨学生も2人増加し、その結果、全体では前年度に比べ3人増加し、合計322人となった。高校奨学生以外で、コロナ渦でのアルバイト機会減少等が新規採用増の要因と推察される。

2年生以上の継続採用者は、すべての学校区分で減少したが、大学奨学生が37人減と大きく減少し、全体では前年度に比べ46人減の合計649人となった。

これらにより、令和3年度採用者合計は前年度より43人減少し、971人となった。

令和3年度の奨学金の貸与・給付総額は5億17百万円となり、前年度に比べて27百万円の減少となった。また、入学一時金の貸与者は、前年度に比べ25人減の合計100人、貸与額は前年度より17百万円減少し、60百万円ちょうどとなった。高校奨学生3年生への進学準備金の貸与は、前年度に比べ15人増の46人、貸与額は前年度より13百万円増加し、35百万円となった。

この結果、令和3年度の奨学金および入学一時金・進学準備金の貸与・給付総額は6億12百万円となり、前年度に比べ30百万円の減少となった。

2. 奨学生の退学、辞退等の状況

令和3年度における退学、辞退者等は前年度（39人）より8人減少し、合計31人であった。これにより令和3年度末奨学生総数は940人となった。

＜令和3年度奨学生採用数の内訳および年度末奨学生数＞ (人)

学 校	新 規 採 用 者			継 続 採用者	採用者 合 計	退学・ 辞退者 等	年度末 奨学生数
	予約 採用	在学 採用	合計				
高 校	41	43	84	171	255	7	248
大 学	114	45	159	408	567	13	554
大学院	7	9	16	8	24	0	24
専修/専門	42	15	57	58	115	11	104
専修/高等	2	1	3	3	6	0	6
各 種	2	1	3	1	4	0	4
合 計	208	114	322	649	971	31	940

また、令和3年度末の奨学金の休止および一時停止者は下表のとおりであり、高校奨学生2人、大学奨学生22人、大学院奨学生1人、専修学校奨学生3人の合計28人である。前年度末より8人増加した。

＜休止、一時停止の状況＞ (人)

	高 校	大 学	大学院	専修・各種	合 計
R2年度末	1	13	0	6	20
R3年度末	2	22	1	3	28
増 減	1	9	1	-3	8

3. 令和4年度奨学生の予約採用および心塾入寮予約採用

令和4年度に進学する者のための予約採用を例年どおり実施した。予約決定者数の合計は令和3年度の224人（高校41人、大学136人、大学院7人、専修・各種40人）より11人少なく、下表のとおり213人であった。特に大学予約決定者が16人減少と大きかった。東京学生寮、関西学生寮の入寮予約採用も実施した。

＜令和4年度奨学生・入寮生の予約決定者数＞ (人)

	高 校	大 学	大学院	専修・各種	合計
予約決定者数	43	120	5	45	213
東京寮予約決定者数	—	23	0	2	25
関西寮予約決定者数	—	19	0	2	21

4. 奨学生の募集広報活動

募集案内を、全国の中学校および高等学校には、年度初めと2学期の終わり頃の年2回、大学・大学院および専修・各種学校には年度初めに送付した。都道府県や市町村の教育委員会、警察等の関係部署、全国の自動車教習所等にも募集協力依頼を年度初めに送付した。これら送付先の総数は約3万件である。

当会ホームページには、詳細な奨学生募集案内を各学校別、予約・在学別に掲載、願書については直接ダウンロードできるようにしており、同ページからの応募関係書類送付申込みや質問の受け付けを実施した。

II. 奨学金の返還

奨学金返還においては、本年度も返還者の減少は続いているものの、回収額は前年度並みとなった。滞納額（6ヵ月超）については、前年度比1.1%増の微増にとどまった。

1. 返還金回収事務の推進状況

(1) 返還金の回収状況

令和3年度の返還対象者数は12,486人、奨学金と入学一時金（進学準備金を含む）を合わせた回収額は10億円ちょうど、請求額（令和3年度中に返還期限が到来した要返還額：11億35百万円）に対する回収率は88.1%であった（前年度は87.4%）。

なお、回収ルート別の回収額は以下のとおり。

＜回収ルート別の回収額＞

(百万円)

	口座振替	振込み		合 計
		銀行	コンビニ	
回収額	778 (77.8%)	51 (5.1%)	171 (17.1%)	1,000 (100.0%)

また、当年度中の返還完了者は 807 人であった。

＜令和 3 年度返還金回収状況＞

	奨学金	一時金	合 計
返還者数	12,486 人	6,528 人	12,486 人
回収額①(千円)	851,219	149,388	1,000,608
請求額②(千円)	959,308	175,942	1,135,250
回収率(①/②)	88.7%	84.9%	88.1%
返還完了者数	807 人	332 人	807 人

＜最近 5 年間の返還金回収状況＞

(百万円)

	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
返還者数	13,994 人	13,634 人	13,243 人	12,865 人	12,486 人
回 収 額	1,026	1,033	1,008	1,016	1,000
回 収 率	88.2%	89.6%	88.1%	87.4%	88.1%
返還完了者数	738 人	786 人	716 人	735 人	807 人

(2) 返還猶予

令和 3 年度中に返還猶予を承認決定した者は 1,123 人で前年度より 130 人多かった。

1,123 人のうち病気療養を含む経済的理由による者が 981 人 (87.4%) おり、経済的理由による返還猶予の申し出は引き続き高い水準で推移している。

＜最近 5 年間の返還猶予決定者数＞

(人)

		H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
猶予決定者数		1,708	1,539	1,506	993	1,123
内 訳	在学中・ 浪人中	172 (11.2%)	127 (8.4%)	197 (11.9%)	105 (10.6%)	105 (9.3%)
	経済的 理 由	1,367 (88.8%)	1,379 (91.6%)	1,462 (88.1%)	888 (89.4%)	981 (87.4%)

(3) 返還滞納者の状況

前年度に比べ、「1年超滞納」「うち5年超の長期滞納」とともに、滞納者数は減少したが、滞納額は増加した。「1年超滞納」は2,509人（前年度比98.5%）、9億92百万円（同101.8%）、「うち5年超の長期滞納」は1,133人（同99.3%）、6億97百万円（同101.2%）であった。

<令和3年度末滞納期間別滞納状況>

滞 納 期 間	R2 年度末		R3 年度末	
	人数(人)	金額(千円)	人数(人)	金額(千円)
5年超	1,141	689,408	1,133	697,238
4年超5年以下	147	52,503	235	80,789
3年超4年以下	318	87,101	306	79,895
2年超3年以下	390	77,001	382	77,915
1年超2年以下	552	68,534	453	56,515
小 計	2,548	974,547	2,509	992,352
6ヵ月超1年以下	388	26,381	270	19,449
合 計	2,936	1,000,927	2,779	1,011,801

<最近5年間の滞納状況>

	1年超滞納		うち長期滞納（5年超）	
	人数(人)	金額(千円)	人数(人)	金額(千円)
H29 年度末	2,598	963,882	1,132 (43.6%)	674,840 (70.0%)
H30 年度末	2,566	932,158	1,043 (40.6%)	620,340 (66.5%)
R1 年度末	2,393	900,179	1,040 (43.5%)	623,584 (69.3%)
R2 年度末	2,548	974,547	1,141 (44.8%)	689,408 (70.7%)
R3 年度末	2,509	992,352	1,133 (45.2%)	697,238 (70.3%)

(注) () 内は1年超滞納に占める割合

(4) 返還免除の状況

令和3年度中の返還免除は、件数で119件、金額で73百万円となり、免除件数は前年度を上回るも、金額は前年度とほぼ同等であった。

奨学生の心身障がいや、債務整理・生活保護受給による返還免除が増加している。

＜令和3年度返還免除件数・金額と5年間の推移＞

(千円)

	H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
死亡	14	11,615	18	17,804	11	7,935	17	12,416	8	5,100
心身障がい	12	10,910	17	17,841	24	29,101	27	38,705	31	34,909
債務整理*	14	10,933	20	20,693	19	19,553	18	18,241	15	21,613
生活保護	12	540	27	1,526	33	1,872	38	2,233	56	4,512
特別支援学校	4	7,020	2	3,120	0	0	1	2,040	0	0
その他	1	65	0	0	0	0	2	125	9	7,545
計	57	41,083	84	60,984	87	58,461	103	73,760	119	73,679

※自己破産、個人再生を含む。

(5) 滞納者への督促状等の送付

滞納期間3ヵ月超の滞納者に対し、4月と10月に督促状を送付した。また10月から返還開始(新返還者)の滞納者(滞納1回以上)に対しては令和4年3月に初回等未納通知52通を発送した。

＜督促状等の発送件数＞

(通数)

滞納期間	滞納通知書 (滞納3ヵ月超)	督促通知書 (滞納3年超)
4月発送	2,138	1,527
10月発送	1,925	1,574
計	4,063	3,101

なお、滞納期間が3年超の督促通知は、滞納通知(3ヵ月超)より厳しい文言で今後の返還計画を回答するよう求めたもの。

(6) 住所調査の推進

宛先不明返還者に対する住所調査を推進し、住民票・戸籍附票等の交付請求や電話調査を915件(前年度比218.4%)行った結果、719件(同184.4%)の移転先住所が判明した。通知書等がより確実に返還者に届き、滞納防止にもつながっている。

2. 重点課題の推進状況

* (1) 長期滞納者対策の推進

① 戸別訪問の実施

新型コロナの感染拡大が一服した令和3年末、福岡県の北九州地域と筑後地域を対象に長期滞納者宅への戸別訪問を実施した。訪問戸数は81戸、対象件数は105件であった。

② 3年超滞納者宛て督促通知の送付

前述(1.(5))のとおり、令和3年3月末現在及び9月末現在で3年超の滞納となっている返還者へ督促通知を送付し、返還を促した。

③ 調停申立て

滞納者に対する民事調停申立てについては、新型コロナの影響ですべて中止した。

* (2) 6ヵ月超5年以下滞納者への電話督促

滞納者に対する電話督促については、新型コロナの影響で休止した。

III. 奨学生に対する指導

1. 学業成績および生活状況に関する指導

(1) 学業成績に関する指導

年度末に奨学生在学の学校から「学業成績表」を取り寄せ、奨学生の令和3年度学業成績の審査を行った。進級状況や取得単位数をもとに奨学金継続又は停止を判定し、成績不振者については、奨学金の停止の措置をとった。また、学業成績表の内容から見て最短修業年限で卒業が見込まれないおそれのある学生およびその保護者に対しては、注意喚起の文書を送付した。一方、令和3年度の留年等による奨学金停止者のうち、同年度の成績に改善が見られた者については、奨学金を復活した。

(2) 生活状況に関する指導

令和4年1月末までに奨学生から「令和3年度生活状況報告書(アンケート形式)」とテーマ自由の作文の提出を受け、修学状況や生活状況を把握し、また卒業後の進路希望などを見るとともに、質問などに対応した。

2. 高校奨学生と保護者のつどい

8月21日(土)、22日(日)の2日間、大阪市内のホテルで「令和3年度高校奨学生と保護者のつどい」を開催する計画であったが、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、昨年度に続き中止を決定、令和3年6月22日に高校奨学生と保護者に中止案内を送付した。

<年度毎のつどい参加状況>

年度	開催日	開催地	対象の高奨生	高奨生	保護者	同行者	合計	高奨生参加率	
H28	8/20～21	東京	337	63	69	15	147	18.7%	
H29	8/19～20	東京	292	67	76	10	153	22.9%	
H30	8/18～19	東京	275	64	66	11	141	23.3%	
R1	8/17～18	東京	248	78	80	30	188	31.5%	
R2	8/22～23	大阪	中止						
R3	8/21～22	大阪	中止						

※高奨生：高校又は高等専門学校高等課程に在学する奨学生

3. 海外語学研修

高校奨学生を対象とした海外語学研修(例年、7月下旬から3週間の日程で実施)は、日米の新型コロナの収束が見通せず、また両国の入国条件が緩和されていないことから中止を決定し、令和3年3月に高校奨学生および保護者に通知した。

なお、過去の海外語学研修の派遣状況は以下のとおり。

<海外語学研修 高奨生の派遣者数>

行先	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
アメリカ	31	24	30	24	中止	中止
オーストラリア	2	0	1	0		
合計	33	24	31	24		

IV. 給付による修学支援

* 1. 家賃補助金

平成27年度下期に創設した「家賃補助」の実績は下表のとおりである。上期143人、下期141人で、昨年度に比べ年間合計で延べ19人減少した。

＜家賃補助の対象人数と給付額＞

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
上期	大学	/	160	146	133	129	132	127
	大学院		18	13	9	8	5	8
	専修・各種		30	24	18	24	13	8
	計		208	183	160	161	150	143
下期	大学	168	161	151	130	137	136	125
	大学院	15	19	12	11	9	5	7
	専修・各種	31	29	24	23	24	12	9
	計	214	209	187	164	170	153	141
総給付額(千円)		19,260	37,530	33,300	29,160	29,790	27,270	25,560

(注)給付額は月々15,000円で、上期と下期に半年分を一括給付する。

* 2. 上級学校進学受験費用補助金

令和3年9月、高校奨学生最終学年生を対象に、大学等の上級学校を受験する際の受験料補助の案内状を送付した。令和3年度は、給付人数、給付額ともに例年並みとなった。

＜進学受験費用補助の対象人数と給付額＞

(金額：千円)

		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
進学受験費用補助金 (5万円限度)	給付人数	52	67	54	64	60
	給付額	1,982	2,645	2,062	2,517	2,350

* 3. 各種資格取得費用補助金

資格取得費用補助として平成30年度から開始した「普通自動車運転免許取得費用補助金」に関する令和3年度の給付人数は119人、給付額は20百万円であった。

＜普通自動車運転免許取得費用補助の対象人数と給付額＞

(金額：千円)

		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
普通自動車運転免許 取得費用補助金 (50%・15万円限度)	給付人数	113	118	130	142	119
	給付額	15,909	16,270	18,539	20,135	20,128

※H29年度の自動車運転免許取得費用補助金についてはH30年4月に給付。

4. 新型コロナ対応支援金

新型コロナの感染拡大により、奨学生やその保護者を取り巻く環境が大きく変化して

いることから、緊急対応として奨学金の休止・停止者を除く奨学生全員に対して「新型コロナ対応支援金」を給付した。なお、3月決定分は「オミクロン株対応支援金」として給付した。

＜新型コロナ対応支援金の給付状況＞

	人数	1人あたり給付額 (千円)	給付総額 (千円)
R2年6月決定分	944	200	188,800
〃 12月 〃	946	100	94,600
R2年度計	—	—	283,400
R3年6月決定分	917	100	91,700
R4年3月 〃	911	100	91,100
R3年度計	—	—	182,800
合計	—	—	466,200

V. 学生寮「心塾」の運営等

1. 塾生の状況

(1) 東京寮

令和3年4月、在寮生24人に加えて、新規入寮予定者7人およびコロナの影響で昨年入寮を見送った学生1人が入寮し、合計32人でスタートした。

令和4年3月末までに、自己都合で3人が退寮し、2人が武蔵境寮へ、1人が所沢寮へ移動、さらに7人が卒業したため、年度末在寮生は19人となった。この19名は、東京寮建替え工事のため、3月末には、ドーミー高尾（共立メンテナンスの学生寮）へ移動した。

(2) 所沢寮

女子2人在寮。新型コロナの影響により対面面談の代わりに、電話連絡等により生活状況を確認した。3月末には、1人卒業し、1人進級した。

(3) 武蔵境寮

男子1人、女子2人、計3人が在寮。月1～2回程度訪問し、生活状況を確認した。3月末には、女子1人卒業し、男子1人、女子1人の計2人進級した。

(4) 関西寮

令和3年4月、新規入寮予定者14人が入寮し、在寮生27人と合わせて計41人でスタート。令和4年3月末までに、途中入寮1人、自己都合退寮3人、3人が卒業し、年度末在寮者は36人となった。

2. 講座等の実施

(1) 東京寮

①文章講座、スピーチ講座、パソコン講座、英会話講座

新型コロナの影響で、文章講座を課題方式にて、スピーチ講座をズームによるオンライン方式にて、通常どおり各4回実施した。

パソコン講座、英会話講座は、昨年度に引き続き中止とした。

②読書感想文講座

下記の本を課題図書とし、通常どおり年4回実施した。

第1回 小川洋子『妊娠カレンダー』（文春文庫）

第2回 澁澤龍彦『高丘親王航海記』（文春文庫）

第3回 三島由紀夫『潮騒』（新潮文庫）

第4回 井上靖『あすなろ物語』（新潮文庫）

③教養講座

新型コロナの影響で中止した。

(2) 関西寮

①読書感想文講座

下記の本を課題図書とし、通常どおり年4回実施した。

第1回 在寮生：森鷗外『舞姫』（現代語訳。ちくま文庫）

新入生：井上ひさし『四十一番目の少年』（文春文庫）

第2回 中村文則『掏摸』（河出文庫）

第3回 三島由紀夫『潮騒』（新潮文庫）

第4回 太宰治『津軽』（新潮文庫）

②教養講座

新型コロナの影響で中止した。

3. 卒塾生との交流促進

新型コロナの影響で寮行事が中止のため、東京寮、関西寮ともに卒業生との交流を中止とした。

4. 東京寮改修・修繕工事

以下の工事を実施した。

①男女洗濯機修理点検、②貯水槽清掃、③水銀灯修理、④防犯カメラ修理、⑤ガス管修理

(参考)

<心塾塾生数の推移>

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
東京	61	56	51	43	36	32
関西	32	42	45	53	51	41
所沢	2	2	2	2	2	2
武蔵境					4	3
計	95	100	98	98	93	78

(注)年度初めの塾生数。例年、年度途中で若干名の入退寮者が出る。

5. 東京寮建替えに関するプロジェクト

前年度末、ゼネコン4社を対象とした指名競争入札を実施し、令和3年7月末、各社から建替え工事（設計・施工。既存建物の解体を含む）に関する提案書を受領、コンサルティング会社を交えた厳密な審査を経て8月半ばに工事会社を決定した。

工事会社との間で9月上旬、建築設計・監理業務委託契約書を締結、同月以降、同会社との間で毎月会合（総会、分科会）を開き、設計の詰め作業を推進した。

令和4年2月、基本設計を完了、今後、既存建物の解体、実施設計などを経て新築工事の着工は令和4年10月の見込み。

VI. 事業資金の強化・拡大

1. 寄付金収入について

令和3年度の寄付金収入実績は、新型コロナの影響により企業・団体訪問などの活動が制限されたが、地方の自動車関連団体やメディア媒体との接触活動に努めた結果、総額10億29百万円と大きな金額となった。これには、高額寄付もあったが、メディアを通じた多方面への働きかけが反映したと考える。

<寄付金収入推移>

(百万円)

年 度	H28		H29		H30		R1		R2		R3	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
金 額	512 (113)		524 (186)		452 (113)		742 (272)		806 (294)		1,029 (20)	
	282 (55)	230 (58)	282 (130)	242 (56)	199 (64)	253 (49)	414 (252)	328 (20)	402 (118)	404 (176)	711 (11)	318 (9)

*（）内は遺贈で内数

2. 寄付金収入の安定化と拡大対策

事業の継続、発展の基盤である資金造成のため、個人・法人を問わず当会の事業に対する理解の広がりおよび支援の拡大に努めているが、令和3年度も、新型コロナによる影響が大きく、十分な活動ができたとはいえない。もっぱら、寄付者に対する接触活動の継続と拡大をねらいに、小冊子「ハンドルの重みは命の重み」や「交通遺児家庭の生活実態調査報告書」などを材料として交通遺児支援活動の理解・支援促進に力を入れた。

(1) 接触活動の推進による当会認知度向上と支援拡大

- ① 地方自治体、自動車・交通関連企業などが実施する安全運転イベント等に積極的に参加・協賛し、当会の事業活動を広報するとともに交通遺児への支援を呼びかける予定であったが、令和2年から続く新型コロナの影響により、すべてのイベントが中止、または延期となった。
- ② 資料の送付を通じて、過年度に寄付をいただいたが現在は停止している法人・団体への寄付復活の働きかけを行った。
- ③ 全国の自動車学校、交通安全協会等、自動車や交通に関連する法人や団体への訪問を活発に行う予定であったが、新型コロナの影響のため自粛せざるを得なかった。資料送付を行ったのみ。
- ④ CSR・社会貢献に積極的な企業についても、訪問は自粛、資料送付のみにとどめたが、数社からの寄付があった。

(2) ブランド保護と活動紹介ツールの拡大

- ① 「あしながおじさんパンフレット」「あしながおじさんポスター」等に含まれるキャッチフレーズ、ロゴマーク、イラストの商標登録4品目すべてに®レジストマークを印字し、商標登録の周知とブランド保護に努めた。
- ② 「あしながおじさん募金箱」「イベント用募金箱」の設置に合わせてパンフレット、ポスター等を積極的に活用し、配布先を拡大した。
- ③ 「募金型自動販売機」の設置を推進した結果、数台の設置増が実現した。
- ④ 報道各社の編集局長、報道局長の理解を促進し、併せて地方の寄付者を掘り起こす趣旨から、小冊子「ハンドルの重みは命の重み」および「交通遺児家庭の生活実態調査報告書」を全国のテレビ放送局、新聞社約230社へ送付し、重点エリアとした複数都市のメディアを訪問した。
- ⑤ 企業・団体数社から、当会のロゴマーク、キャッチフレーズの使用かつ募金協力の申し出があり、これに応じ募金を推進した。

(3) 無料出張講演

自動車学校の教官への研修会や運転業務に従事する従業員の多い運輸会社・タクシー会社等の研修会などで無料出張講演を積極的に実施する予定であったが、新型コロナ

ナの影響のため全て中止または延期となった。

(4) 遺贈受入れ等の積極的な訴求

遺贈に関与している弁護士、司法書士や金融機関等を対象に、不動産を含む遺贈受入れなど当会のきめ細かな対応を、パンフレットやホームページ等を通じてPRし、当会を受遺者とする遺言書の作成を働きかけた。併せて、引き続き大手出版社の発行する雑誌や全国紙、地方紙の遺贈特集に活動紹介を掲載した。

＜個人および法人・団体等からの寄付＞

(千円)

年 度		H28	H29	H30	R1	R2	R3
個人	件数	5,871	6,672	7,772	8,963	10,714	11,601
	人数	1,430	1,748	1,862	2,014	2,909	2,708
	金額	347,990	382,005	277,659	589,871	597,591	833,288
法人/ 団体等	件数	1,090	1,219	1,248	1,271	1,282	1,392
	社数	533	578	600	591	538	628
	金額	164,358	141,821	174,772	152,732	209,136	196,091
計	件数	6,961	7,891	9,020	10,234	11,996	12,993
	人/社数	1,963	2,326	2,462	2,605	3,447	3,336
	金額	512,348	523,826	452,431	742,603	806,727	1,029,379

VII. 知名度向上活動

1. 知名度向上の取り組み

(1) ホームページ

①令和2年度より新型コロナに対応して、トップページに「緊急のお知らせ」欄を設け、支援金の給付、イベント等の中止連絡、職員のテレワーク体制への移行等を掲載し、奨学生や関係者等への迅速な情報提供を継続した。

②当会の正しい歴史と沿革を広くアピールするため、ホームページの「沿革」欄を変更した。

③当会ホームページへのアクセス数を増やすための取り組みを継続した結果、アクセス数が増加傾向にある。

(2) 広報紙「君とつばさ」

①当会の事業活動を広く紹介するため、より読みやすく、より親しみやすくなるように紙面の充実を図った。

- ②5月(349号)、8月(350号)、10月(351号)、1月(352号)、3月(353号)の5回発行し、学校関係、奨学生、支援者などに各回約3万2,000部を送付した。そのほか、10月号と3月号については、別途全国の中学校に各回1万部を送付した。

* (3) 記事掲載促進

- ①マスコミを通じて行う広報活動として、読者ターゲットに合わせて、新聞(一般紙、業界紙)、雑誌(月刊誌、週刊誌)を中心に適宜メディアを選別しつつ露出を増やし、情報提供を積極的に行った。
- ②令和3年6月に実施した3回目および令和4年3月に実施した4回目の新型コロナ対応支援金給付に際しては、記者クラブへの投込みを中心にリリースを行った。

* (4) 媒体を通じた広報の展開

①遺贈・相続受け入れ等の積極的PR

遺贈や遺産の寄付先を検討されている方や弁護士、司法書士、金融機関等に、不動産を含む遺贈受け入れなど当会のきめ細かな対応を、雑誌・新聞等の媒体を積極的に活用してPRした。

- ②「螢雪時代」「自動車年鑑」等への広告掲載を継続し、当会の活動を広くPRした。

(5) 交通安全活動への協賛等を通じた知名度向上推進

①全国交通安全運動への協賛等

春、秋の全国交通安全運動に協賛団体として参画し、ホームページ上に掲載するとともに、自動車や物流関連の業界紙掲載を通じて、地域・自治体・団体レベルの各種交通安全運動との連携を推進した。

②無料出張講演の実施

講演会の規模等により、通常講演会とミニ講演会に分け、小回りのきく出張講演を数多く実施することにより、交通安全意識の啓発を行うとともに交通遺児への理解を促進する予定であったが、新型コロナの影響により全て中止・延期となった。

ミニ講演会を中心に活用を予定しているDVD(保護者と奨学生)制作については、一部完成した。

③「飲酒運転撲滅・根絶」イベント等への積極的参加・協力

全国各地の自治体が開催する「飲酒運転撲滅・根絶」イベント等へ積極的に参加・協力し、交通安全に対する強いメッセージを発信しつつ、当会の事業活動を広報するとともに交通遺児への支援を呼びかける予定であったが、新型コロナの影響によ

り全て中止・延期となった。

* (6) 交通遺児家庭についての理解を深める活動の推進

①小冊子第二集「ハンドルの重みは命の重み」の発刊と配布

交通遺児やその保護者のみなさんの苦労や頑張りや社会の人たちに知ってもらうために、近年開催した「高校奨学生と保護者のつどい」、講演会等のスピーチや原稿をもとに、小冊子の第二集を令和3年6月に発刊し、約2,500ヵ所に7,500部を配布した。好評で追加依頼も多いため増刷した。

②「交通遺児家庭の生活実態調査報告書」の活用

令和2年度に行った「交通遺児家庭の生活実態調査報告書」のデータを詳細に分析し、交通遺児家庭の生活実態や生の声を、当会事業のあり方を検証・再構築する資料として活用するとともに、交通遺児への社会的認知の向上を図るため、900ヵ所に配布した。

③警察庁への協力・連携

警察庁交通局より、交通事故被害者サポートの一環として、「交通事故で家族を亡くした子どもの支援」に関する意見交換会(10月14日)とシンポジウム(12月2日)がオンラインで開催され、それぞれ当会の奨学生が参加し、自己の体験発表を行った。

また、例年の企画として、警察庁交通局交通企画課と連携し、交通事故被害者に配布してもらうべく、警視庁および全国の警察署に当会の事業紹介パンフレット計1万2,000部を送付した。

(7) 全国の自動車・物流団体・企業への広報

①全国を9地区(北海道、東北、関東、北信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄)に分け、各地区の自動車や物流関連の団体、企業、特に交通事故発生件数の多い地区を積極的に訪問し、当会の知名度向上、支援の拡大を図るとともに、併せて地方新聞社への訪問により地元企業の紹介や記事広告等の掲載も推進する予定であったが、新型コロナの影響により、北海道、東北、北信越の3地区のみの接触となった。これら3地区の新聞社、テレビ局、ラジオ局等を訪問し、交通遺児家庭の実態および当会の事業について説明、理解促進に努めた。

②各種企業、団体が主催するセミナーやイベントでの講演・スピーチに積極的に参加、協力し、当会の事業活動を広報するとともに支援を呼びかける予定であったが、新

型コロナの影響により全て中止・延期となった。

* (8) インターネット、各種SNS等における当会に対する不当不正情報への対応強化

①インターネット、各種SNS等に限らず、当会の名誉や活動に対する不当不正な情報に対処するため、常時あらゆる分野において監視体制を強化した。

②知名度向上・差別化のため、キャッチフレーズの商標登録を適宜行い、広報、募金活動、奨学生募集活動に積極的に活用した。

(参考)

＜広報費の推移＞				(千円)
年度	一般広報費 (募金・奨学事業費、 一般管理費)	AC関係	計	平均
H25	890	0	890	1,289
H26	1,668	20	1,688	
H27	1,133	17,050	18,183	20,967
H28	2,248	18,244	20,492	
H29	2,303	17,827	20,130	
H30	5,038	16,422	21,460	
R1	17,940	0	17,940	
R2	17,208	0	17,208	
R3	31,358	0	31,358	

※) R3年度は2月までの累計

(1) 一般広報費の内訳

- ①日刊自動車新聞、物流ニッポン、日本教育新聞等の新聞で広告記事掲載
- ②月刊文藝春秋、週刊文春、螢雪時代、文春ウーマン等への広告記事掲載
- ③ラジオ（北海道、九州）広告
- ④育英会のロゴ入り幟旗、Tシャツ、ジャケット制作
- ⑤小冊子（交通遺児および保護者の講演集）制作、配布
- ⑥感謝証制作、贈呈

(2) AC広告前後の広報費比較

H26 以前 (AC広告前)	1,300 千円/年
H27 以降 (AC広告後)	21,000 千円/年

令和3年度事業報告の附属明細書

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成していない。

(2022. 6. 3)

別表1

奨学生現況表〔高校・大学・大学院・専修・各種 学年別〕

(令和4年3月31日現在)

区分・学年 都道府県	高校・高専					大学・短大						院・修士			院・博士				専修					各種												
	1	2	3	4	5	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計					
北海道	2	1	6			9	4	4	4	2		1	15	1	1	2						0	2	3			5					0				
東 北	青森	2		3			5	1	2				3			0						0	1				1					0				
	岩手			2			2	2		1			3			0						0					0					0				
	宮城	2	3	2			7	6	3	8	3	1	21	1	1	2						0		1			1					0				
	秋田			1			1						0			0						0					0					0				
	山形			1			1			3	2	3	1			9						0					0					0				
福島		2	2			4	4	2	4	2		12			0						0	1				1					0					
関 東	茨城	1					1	2	4	3	1		10			0						0	3				3					0				
	栃木		1				1	1	1	1	1		4			0						0		1			1	1				1				
	群馬	2	2	3			7	4	3	2	4		13		1	1						0		1			1					0				
	埼玉			2			2	7	1	7	3		18		1	1	1					1	3	3			6					0				
	千葉	1	1	1			3	7	8	5	3		23			0						0	3	1	1		5					0				
東京	3	4	5			12	8	11	9	7		35			0						0	3	2			5					0					
神奈川	1	3	6			10	2	5	9	4		20			0						0	5	2			7					0					
中 部	新潟	1	3	3			7	3	3	1	6		13	1		1						0	1	1	1		3					0				
	富山						0				2		3			0						0	1				1					0				
	石川		2		1		3	3	1				4			0						0					0					0				
	福井		1				1	1			1		2			0						0					0					0				
	山梨			3			3			1	2		3			0						0		1			1					0				
	長野		2	1			3	4	5	2		1	12			0						0	1				1					0				
	岐阜	2	2	2			6	4	4	4	3		15	1		1						0	1				1					0				
	静岡	1	3	2			6	3	4	5	5		17			0						0		2	1		3					0				
	愛知	1	6	5			12	11	7	12	8		38	1		1						0	4	3	1	1	9					0				
三重		4	2			6	2	1	3	2		8			0				1		1	1	1			2					0					
近 畿	滋賀		2	2			4	2	4	3	3		12	1		1						0	1				1					0				
	京都	4	1				5	4	2	4	3	1	14			0			1			1			1		1					0				
	大阪	7	8	6			21	8	6	10	15	1	40	1		1	1	1				2	2	2	1	1	6					0				
	兵庫	5	8	5			18	10	9	8	7	1	35		1	1						0		3	2		5	1				1				
	奈良	1		2			3	4	1	7	3		15			0						0	2		1		3					0				
和歌山	2	1	5			8	2	1	2			5			0						0	1	3			4					0					
中 国	鳥取						0					1	1			0						0					0					0				
	島根						0		1				1			0		1				1					0					0				
	岡山	1	1	1			3	4	5	1	1		11			0						0	2	2			4					0				
	広島	1		4			5	2	2	2	4		10			0						0	2				2					0				
四 国	山口		1	2	1		4	2	2	3	2		9			0						0	2				2					0				
	徳島	1	2	3			6	1	3	3	2		9			0	1					1	1				1	1				1				
	香川		2				2	4	1	3	4		12			0						0	1	1			2					0				
	愛媛	2	1	1			4	2	2	3		1	9		1	1						0					0					0				
九 州	高知	1					1	2		2			4			0						0	1				1					0				
	福岡	4	7	7	1		19	8	9	5	3		25			0						0	5	4	1		10					0				
	佐賀	2	3	1			6			1	1		2	1		1						0		1			1					0				
	長崎	1					1	3	1		1		5			0	1					1					0					0				
	熊本	2	3	5			10	1	3		1		5			0	1					1	2				2					0				
	大分	1					1	3		2	2		7	1		1						0					0					0				
沖 縄	宮崎	2	2	1			5	1	3	2	1		7			0						0	1	1			2					0				
	鹿児島	2	3	3			8	3	1	4	1		9		1	1						0					0					0				
	沖縄		2				2		2	2	2		6			0						0	1	4	1		6	1				1				
合計	58	87	100	3	0	248	143	132	149	120	6	4	554	9	6	15	6	2	1	0		9	54	43	11	2	110	3	1	0	0	4				
(内休学停止者)						0	2	1	5	3	1	12			0	1					1		1			1					0					
備考(内数)	高校・定時制: 2人 高校・通信制: 25人 高専・専攻科: 5人					短大: 25人										高等課程: 6人																				
総合計: 940人																																				

○奨学貸与金増減残高状況

令和3年度の奨学貸与金の増減残高状況は、次の通りである。

(貸倒引当金 351,350,000円控除前の金額)

(単位:円)

		高等学校奨学金	大 学 奨 学 金	大 学 院 奨 学 金	専 修 学 校 奨 学 金
奨学貸与金期首残高		4,110,913,001	5,376,508,150	352,020,714	1,324,687,085
貸与	当期貸与高	92,220,000	204,110,000	14,300,000	45,120,000
	前期繰越貸与高	27,023,858,500	19,004,297,059	938,900,000	3,514,190,000
	次期繰越貸与高	27,116,078,500	19,208,407,059	953,200,000	3,559,310,000
返還	当期返還高	289,381,401	430,148,783	30,150,842	96,708,463
	前期繰越返還高	22,521,573,543	13,444,656,350	575,777,286	2,146,312,440
	次期繰越返還高	22,810,954,944	13,874,805,133	605,928,128	2,243,020,903
免除	当期免除高	25,587,900	26,120,400	24,000	8,024,500
	前期繰越免除高	391,371,956	183,132,559	11,102,000	43,190,475
	次期繰越免除高	416,959,856	209,252,959	11,126,000	51,214,975
奨学貸与金残高		3,888,163,700	5,124,348,967	336,145,872	1,265,074,122

		各種学校奨学金	奨 学 金 合 計	高等学校入学一時金 進 学 準 備 金	大学入学一時金
奨学貸与金期首残高		52,888,690	11,217,017,640	1,575,128,093	721,925,217
貸与	当期貸与高	1,200,000	356,950,000	53,000,000	29,400,000
	前期繰越貸与高	166,510,000	50,647,755,559	3,076,450,000	1,825,150,000
	次期繰越貸与高	167,710,000	51,004,705,559	3,129,450,000	1,854,550,000
返還	当期返還高	4,849,492	851,238,981	81,395,330	50,547,276
	前期繰越返還高	112,461,310	38,800,780,929	1,442,655,784	1,076,261,242
	次期繰越返還高	117,310,802	39,652,019,910	1,524,051,114	1,126,808,518
免除	当期免除高	0	59,756,800	6,960,630	3,936,180
	前期繰越免除高	1,160,000	629,956,990	58,666,123	26,963,541
	次期繰越免除高	1,160,000	689,713,790	65,626,753	30,899,721
奨学貸与金残高		49,239,198	10,662,971,859	1,539,772,133	696,841,761

		専修学校入学一時金	各種学校入学一時金	入学一時金等合計	合 計
奨学貸与金期首残高		271,158,156	7,400,210	2,575,611,676	13,792,629,316
貸与	当期貸与高	12,200,000	600,000	95,200,000	452,150,000
	前期繰越貸与高	453,600,000	12,800,000	5,368,000,000	56,015,755,559
	次期繰越貸与高	465,800,000	13,400,000	5,463,200,000	56,467,905,559
返還	当期返還高	16,961,873	467,910	149,372,389	1,000,611,370
	前期繰越返還高	173,367,744	5,012,990	2,697,297,760	41,498,078,689
	次期繰越返還高	190,329,617	5,480,900	2,846,670,149	42,498,690,059
免除	当期免除高	3,025,800	0	13,922,610	73,679,410
	前期繰越免除高	9,074,100	386,800	95,090,564	725,047,554
	次期繰越免除高	12,099,900	386,800	109,013,174	798,726,964
奨学貸与金残高		263,370,483	7,532,300	2,507,516,677	13,170,488,536